

「レジリエンス」を高めるために

一般社団法人  
レジリエンス協会



***RRCJ***

The Resilience Research Council of Japan

The Resilience Research



## 「レジリエンス」を高めるために

レジリエンス協会が設立されてから10年以上の年月が経ちました。この間、私たちは国内のみならず海外からも情報を収集し知識を深めてまいりました。とはいえ、残念ながら「レジリエンス」という言葉に対しての意味は一般の方々にはわかりづらく、浸透していないのではないかと感じています。

今までさまざまな組織で「防災力」あるいは「事業継続力」を高める取り組みが行われてきました。これに加えて「持続力」という言葉の意味も求められるようになっていきます。懸念される首都圏直下型地震や、南海トラフ地震が顕在化してしまった場合に備えて、日本ではあらゆる分野での「防災力」と「事業継続力」に「持続力」を加えた「レジリエンス」を高めていく

ことは、豊かで満ち足りた社会を確立するためにも非常に重要と考えています。

本協会ではこの「レジリエンス」をさらに高度に洗練しながら追求し、時代の変化に関わらず適応可能とするための知識を共有することを主眼に置いています。社会の様々な局面で「レジリエンス」を高めていけるように、あらゆる分野との情報共有の機会を確立し、知見をさらに深めるための場としての役割を果たしていきます。今後も、安全安心で希望のある日本を築くための基礎知識の共有の拡大を図りつつ、活動を続けてまいります。

代表理事 田中 和明

### レジリエンス協会の目的



本協会は、安心安全で持続可能な社会の実現に向け、産官学と協働してレジリエンスの評価手法を確立することを目的として、以下の活動に取り組みます。

- ・現地調査、事例研究、国際協力、シミュレーションモデルの構築
- ・地域社会と組織のレジリエンスの状況を総合的かつ客観的に評価する手法の開発
- ・レジリエンス評価を行う上で現れる実務的な諸問題の確認と解決に向けて ISO（国際標準化機構）を含む国内外の組織に提言と支援、普及啓発

### レジリエンス協会が目指す成果



本協会は、あるべきレジリエンスの方向性と評価計測手法を合理的に提示し、社会、企業及び組織のレジリエンス向上に寄与することを目指します。



### レジリエンス協会小史



- 2004 年 1 月 半導体製造装置材料国際協会 (SEMI) 事業継続マネジメント (BCM) 研究会発足 (東京・千代田区)
- 2008 年 10 月 社団法人日本工業技術振興協会 (JTTAS) 事業継続マネジメント (BCM) 研究会に改組 (東京・港区)
- 2010 年 10 月 社団法人日本工業技術振興協会 (JTTAS) レジリエンス協議会に改組 (東京・港区)
- 2012 年 4 月 一般社団法人レジリエンス協会に改組

### レジリエンス協会役員

会 長 林 春男 京都大学名誉教授  
副 会 長 増田幸宏 芝浦工業大学  
代表理事 田中和明 有限会社藍流経営研究所  
理 事 荒木道雄 元王子タック株式会社  
理 事 谷川知宏 東京国際工科専門職大学

理 事 榎本純夫 Atts  
理 事 真城源学 株式会社東急総合研究所  
監 事 野口裕之 株式会社エイフラツ  
顧 問 黄野吉博 元代表理事、黄野事務所



# レジリエンス協会の活動

## 定例会



年間5回開催しています。レジリエンスに関連して、いろいろな角度から様々な分野の専門家の講演を聞く機会を提供します。定例会は都心の交通利便な会場での開催と、オンライン（Zoom）によるハイブリッドで実施し、どこからでも参加できます。定例会開催のお知らせは、メールマガジンでお伝えするとともに、本協会 Web サイト (<https://resilience-japan.org/>) から確認できます。このサイトから、定例会講師の資料をダウンロードして、知識習得・情報収集に生かしてください。

## レジリエンス・ビュー

年間複数回発行する会報誌です。当協会の活動報告や巻頭エッセー、専門家の寄稿による論文・報文、関連記事、書籍紹介などで構成しています。発行のお知らせはメールマガジンでお伝えし、本協会 Web サイトからダウンロードができます。

## メールマガジン

随時、会員と当協会の活動に関心を持つ方に配信しています。定例会開催の通知、講師資料やレジリエンス・ビューのダウンロード先、関連団体イベント等の記事を配信しています。

メールマガジンの登録は、定例会の際に実施するアンケートから申し込みができます。

## 研究会・公開研究会

現在、以下の研究会が活動しています。詳細は別紙「研究会活動概要」及び本協会 Web サイトをご覧ください。

### レジリエンス DX 動向研究会

レジリエンス強化に繋がる新しい IT サービスを、企業や組織がどのように活用（DX）するかサービス提供会社から説明を受けて、サービス自体の評価ではなく、活用方法を見出していくことを目的とします。

### しなやかな社会研究会

災害や危機に強いしなやかな社会の実現を目指し、危機対応力を向上するために活用できる国際規格等の普及啓発に取り組んでいます。

### 組織レジリエンス研究会

組織のレジリエンスを評価するためのフレームワークの検討と事例の収集・分析に取り組んでいます。研究会成果は、定例会で発表するとともに、外部のウェブサイト note から情報発信しています。

### サステナブル評価指標研究会（旧：レジリエントな都市研究会）

レジリエントな地域社会の構築に取り組む国内の官・民・学の連携事業や研究開発に焦点を当て、UN（及び ISO 規格）の文献を参考に、情報を収集し評価指標を検討しています。公開研究会を開催し、外部との広範な研究に取り組むとともに、2020年度より減災サステナブル技術協会「防災・減災×サステナブル大賞」の活動支援を行っています。

## その他活動実績

- ☑ ISO 普及活動（説明会開催）
- ☑ 「シナリオ非提示型 災害対策本部訓練」開催（地震、台風等の災害時想定）
- ☑ 国土強靱化計画にもとづく「レジリエンス認証制度」の周知、普及、認証審査支援
- ☑ 地域防災、BCP 関連講演会、説明会の開催
- ☑ BCP 策定支援等のプロボノ活動
- ☑ 海外文献翻訳、災害地視察ツアー開催等



## レジリエンス協会の会員

### 会員募集中

レジリエンス協会では会員を募集しています。協会はレジリエンスに関する情報収集、意見交換の場として、さまざまな分野の方々に気軽に参加いただいている会です。レジリエンスにご興味をお持ちの方は、ぜひ一度定例会に参加し、会の活動状況等を実際に確認してみてください。

入会をご希望される方は、右の Web サイトから、会員要綱をご確認の上、事務局にお申し込み下さい。

レジリエンス協会の  
申し込み Web サイト



<https://resilience-japan.org/enrollment/>

### 会員に役立つ情報の入手先

①

レジリエンス協会 Web サイト

<https://resilience-japan.org/>  
及び右 QR コード



②

定例会の情報・資料ダウンロード

画面上部「定例会」ヘッダーから

③

研究会活動

画面上部「研究会活動」ヘッダーから

④

レジリエンス・ビューのダウンロード

画面上部「会報 Resilience View」ヘッダーから

### 会員の種類

#### ① 個人会員

入会金無料、年会費

10,000 円

#### ② 法人会員

入会金無料、年会費

100,000 円

#### ③ 学生会員

入会金無料、年会費

5,000 円

※法人所属の10名まで個人会員と同等の活動ができます。

### 会員の状況 (2023 年 3 月 31 日現在)

個人会員：47 名

法人会員：2 団体

学生会員：2 名

メールマガジン登録者：約 500 名



一般社団法人 レジリエンス協会

〒105-0004 東京都港区新橋 5-5-1 IMC ビル新橋 3F

お問合せは E メールにてお願いいたします。

[info@resilience-japan.org](mailto:info@resilience-japan.org)

# Council of Japan